

## 畜産センター だより

### 碓高原牧場の果たす役割

## 碓高原牧場長 瀬崎 勝也

本年5月の異動で碓高原牧場長を拝命いたしました。微力ですが、府内の肉用牛発展のために全力を尽くす決意ですのでよろしくお願い致します。

碓高原牧場は、昭和54年の開場以来、本年をもって35周年を迎えました。

当時は遡ることオイルショックのさめやらぬ昭和49年の建設予定地調査から始まり、50年11月の起工から足かけ5年の工事を経て、昭和54年4月に「京都府碓高原総合牧場」として開場したものです。

当時、牧場の設置に当たっては、『目先の情勢にとらわれることなく、30年後あるいは50年後を見透かした大計を樹立し、何十年か後の丹後半島の農業振興及び府内の畜産経営発展のための拠点として役立つもの』とすることを目標に計画が策定された。「碓高原総合牧場建設記録」に小森仙介農林部長（当時）の記述が残っています。

この35年の永きにわたり、本牧場は、今日に至るまで、二度にわたる府研究機関の再編統合の中でその名称は変わるものの、建設当時の大計は揺るぐことなく、求められる使命を果たす努力を脈々と継続しています。

近年は、和牛飼養戸数の著しい減少による子牛出荷頭数の減少が続く中で、府内の食肉流通事業者や有名牛肉料理店からは、京都府のブランド畜産物である「京都肉」をはじめ、生まれも育ちも京都という肉牛の出荷に強い要望があります。

また、京都府が取り組みます健康で安全な「こだわり畜産物」の“ブランド戦略”と“消費拡

平成26年12月  
第13号

京都府農林水産技術センター  
畜産センター

〒623-0221 綾部市位田町檜前

電話:0773-47-0301

fax :0773-48-0722

MAIL:ngc-chikusan@pref.kyoto.lg.jp

URL:http://www.pref.kyoto.jp/chikken/

碓高原牧場

〒627-0248 京丹後市丹後町碓1

電話:0772-76-1121

fax :0772-76-1123

大”の展開において、今年度から府内産牛肉の知名度を高め、輸出の促進も図られようとしています。

このような中で、当場は産肉能力の高い繁殖雌牛を繋養し、農家の基礎牛や肥育素牛となる子牛の生産、加えて、和牛胚の生産譲渡や即戦力となる妊娠牛譲渡などを行い、肉用牛農家の一層の経営向上が図られますよう支援することとしています。

さらに、府北部地域の観光まちづくりを総合的かつ計画的に実施する「海の京都」構想のなかで、府民に親しまれる「憩いの牧場」として、年間約3万人が訪れる丹後の重要な観光資源ともなっています。

今年、開場35周年を記念して、6月1日には、

日頃は非公開の施設の見学や親子畜産教室など来場者自ら「参加」「体験」して頂く機会として、「畜産ふれあいファームin碓」を開催し、大勢の府民の皆様にご参加を頂き好評を得たところです。

今後も畜産農家のお役に立ちます「碓高原牧場」、府民の憩いの場「碓高原牧場」を目指し、その使命を果たすこととしておりますので、皆様の御支援、御協力をお願いいたします。



# 調 査 ・ 報 告

## 平成 25 年度京都府子牛せり市の概要 ～ 子牛の血統構成と父別の成績 ～

平成 25 年度（25 年 6 月市から 26 年 3 月市まで）中丹家畜市場で取引が成立した子牛計 522 頭（去勢 253 頭、雌 269 頭）の血統構成と父別の成績を紹介します。

### 1 子牛の血統構成

父牛別の出荷頭数割合は隆之国が 19.5%（去勢 19.4%、雌 19.7%）と最も高く、次いで安福久 16.5%、百合茂 12.3%、安平幸 7.3%、安茂勝 5.0%、福安照 5.0% でした（表 1）。

母の父牛別の出荷割合は金幸が 14.0%（去勢 13.8%、雌 14.1%）と最も高く、次いで平茂勝 10.9%、百合茂 10.7% でした（表 2）。

表 1 父牛別の出荷成績

父牛名	♀ + 去勢、頭、%	
	頭数	割合
隆之国	102	19.5
安福久	86	16.5
百合茂	64	12.3
安平幸	38	7.3
安茂勝	26	5.0
福安照	26	5.0
芳之国	23	4.4
第 1 花桜	18	3.4
勝忠鶴	16	3.1
茂勝栄	16	3.1
菊花国	15	2.9
福華 1	13	2.5
北平安	8	1.5
その他(32頭)	71	13.6
522		

表 2 母の父牛別の出荷成績

母の父牛名	♀ + 去勢、頭、%	
	頭数	割合
金幸	73	14.0
平茂勝	57	10.9
百合茂	56	10.7
忠富士	51	9.8
勝忠平	48	9.2
菊幸	38	7.3
安福久	24	4.6
隆桜	13	2.5
安平	12	2.3
勝 21	11	2.1
隆之国	10	1.9
安茂勝	10	1.9
安平安	9	1.7
その他(49頭)	110	21.1
522		

藤良系の種雄牛を父に持つ繁殖雌牛が少ない中で、藤良系の種雄牛（隆之国、芳之国、第 1 花桜など）は、交配のしやすさもあり、安定した頭数を保っていました。また、府内繋養頭数の多い、平茂勝、忠富士等の気高系種雄牛や金幸の栄光系種雄牛を父に持つ繁殖雌牛に対しては中土井系で脂肪交雑に優れる種雄牛（安福久、福安照）との交配が多くなっています。

### 2 子牛の父牛別成績

去勢、雌で出荷頭数がそれぞれ 10 頭以上の種雄牛について成績を表 3 に示しました。

去勢、雌ともに隆之国の子が最も多く上場され（去勢 49 頭、雌 53 頭）、増体成績（日齢体重 去勢 1.05 kg/日、雌 0.95 kg/日）・税抜取引価格（去勢 488,388 円、雌 436,415 円）ともに平均的な値でした。また、全国的に人気の安福久の子も多く上場され（去勢 42 頭、雌 44 頭）、中土井系としては増体が良好（日齢体重 去勢 1.04 kg/日、雌 0.97 kg/日）で、高値（去勢 505,024 円、雌 538,136 円）で取引されました。なお、気高系の百合茂も昨年度より若干頭数が減少したものの高値で取引されました。

表 3 子牛の父別取引成績

性別	父牛名	頭数 (頭)	割合 (%)	日齢 (日)	体重 (kg)	日齢体重 (kg)	(税抜)	
							価格 (円)	kg単価 (円)
去勢	隆之国	49	19.4	269	284	1.05	488,388	1,735
	安福久	42	16.6	273	282	1.04	505,024	1,794
	百合茂	33	13.0	262	285	1.09	491,727	1,728
	安平幸	18	7.1	261	291	1.12	450,444	1,547
	安茂勝	15	5.9	275	285	1.04	468,800	1,652
	福安照	11	4.3	273	283	1.05	495,091	1,742
	全体	253		270	284	1.06	484,672	1,712
雌	隆之国	53	19.7	276	263	0.95	436,415	1,670
	安福久	44	16.4	267	257	0.97	538,136	2,092
	百合茂	31	11.5	275	282	1.03	488,903	1,739
	安平幸	20	7.4	272	280	1.04	457,250	1,643
	芳之国	16	5.9	291	279	0.97	456,813	1,646
	福安照	15	5.6	287	258	0.90	445,800	1,738
	安茂勝	11	4.1	283	277	0.98	453,455	1,646
全体	269		278	266	0.96	463,268	1,753	

## 京都マニュアル子牛の取引状況及び肥育成績

全国農業協同組合連合会京都府本部は、中丹家畜市場で開催する子牛せり市において、「京都マニュアル子牛」認定制度を実施しています。飼料給与や管理方法を定めた「京都産和牛子牛飼養管理マニュアル」に基づいて育成され、一定の基準を満たした子牛は、「マニュアル子牛」に認定されます。

平成 23 年度に認定制度を導入し、これまでに 123 頭（平成26年6月市現在）がマニュアル子牛に認定され、その認定率は約 8 % でした。

認定子牛の平均取引価格（去勢雌込み、税抜）

は約 51 万 7 千円でそれ以外の子牛より約 8 万円高く取引されました（表 1）。

認定子牛を追跡調査したところ、去勢 6 頭、雌 7 頭の計13頭について枝肉成績が判明しています。雌、去勢とも十分な枝肉重量であるとともに 4 等級以上の割合が92%と質・量ともに優れた肥育成績であり、マニュアルの効果や認定子牛の優秀性を裏付けるものでした（表 2）。

今後、認定頭数が増加することにより、京都府産和牛の評価がさらに高くなっていくと考えられ、認定率の向上が望まれます。

表1 京都マニュアル子牛認定頭数と平均取引価格

（去勢・雌込み、税抜）

認定牛			認定牛以外	
頭数	認定率	取引価格	頭数	取引価格
123頭	8.2%	517,211円	1,383頭	438,537円

（参考）平成23年11月市から平成26年6月市までの取引頭数(1,506頭)を集計

表2 京都マニュアル子牛認定牛の肥育成績

（平均±標準偏差）

性	頭数 頭	出荷月齢 月	枝肉重量 Kg	ロース芯面積 cm <sup>2</sup>	BMS	格付
去勢	6	29.3±1.7	529.8±20.1	58.7±6.5	6.8±1.3	5:3頭、4:3頭
雌	7	30.3±1.5	497.0±57.0	64.0±8.9	8.4±2.4	5:6頭、2:1頭

## 和牛受精卵移植産子の高い増体能力を確認

京都府では、育種価と受精卵移植技術を最大限に生かし、和牛の産肉能力向上と和牛子牛増産を進めてきました。和牛受精卵産子は、平成 18 年以降、子牛せり市上場頭数の約 20 % を常に占めており、子牛せり市の頭数確保、維持に欠かせない重要な存在となっています。

碓高原牧場で生産された受精卵（ET）の産子が、増体や肉質の改良にどの程度寄与しているのかについて、子牛せり市データと肥育出荷成績（育種価解析データ）を用いて、府内各農家で生産された人工授精（AI）産子と発育や肥育の成績を比較検討しました。

子牛せり市出場時の日齢は、AI 産子と ET

産子に差はなく、体重、日齢体重も差は認められませんでした（表 1）。枝肉重量は、ET 産子が AI 産子より重く（ $P<0.05$ ）、脂肪交雑（BMS）には差がなく（表 2）、碓高原牧場で生産される受精卵は、良好な肉質を保ちながら枝肉重量（増体）の改良に寄与していると考えられます。

碓高原牧場で生産された受精卵であれば育種価判明率も高いため、特に高い育種価が期待できる雌子牛については、肥育仕向でなく繁殖仕向けの保留や導入を検討してください。種雄牛の育種価を考慮して交配することで改良が大きく進み、きっと牛群改良に役立つと思います。

表1 せり市出場時の産子の体重

(Kg 日)				
区分	性別	体重	出荷日数	日割体重
AI	去勢	291.5	278.7	1.05
ET		303.0	290.8	1.04
AI	雌	272.1	294.9	0.92
ET		288.9	310.9	0.93

表2 AIとET産子の枝肉重量とBMS

区分	性別	枝肉重量	BMS
AI	去勢	499.0 <sup>a</sup>	5.96
ET		517.4 <sup>b</sup>	6.07
AI	雌	442.6 <sup>c</sup>	5.38
ET		454.3 <sup>d</sup>	5.40

## 観光資源としての碓高原牧場

碓高原牧場は、見晴らしのよい景勝地に立地し、日本海が望める広々としたオープンスペースに緬山羊などが放牧され、動物とのふれあいや癒しの場を求めて多くの方々が来場されます。



そこで、来場者がどの程度その価値を認めているか、アンケート調査を実施してその価値を評価しました。



アンケートの結果から分かったことは、まず来場者の平均像として、小さなお子さんを連れた30代の両親が、おじいちゃんやおばあちゃんと一緒に遊びに来る、といった家族連れの姿が浮かび上がりました。また、2回以上来場されているリピーターの割合が6割と高く、ちょっと立ち寄りだけではなく、食事も含めて少しゆっくり、のんびりと過ごされる方が目立ちました。碓高原牧場の印象や感想を尋ねたところ、レクリエーション空間の提供、癒しや安らぎの場の提供、良い景観の提供の3項目、いずれも9割以上の方から

そう思うとの回答が得られ、かなり良いイメージで楽しまれたと感じられる結果でした。

アンケート結果に基づく評価には、トラベルコスト法という方法を用いました。これは、来場者の居住地と碓高原までの旅行費用を用いて評価する方法です。

今回のアンケート調査の結果と、推計に必要となる各種データを元に、旅行費用と訪問頻度の関係を最小二乗法により推定し、需要曲線として対数比例の近似曲線を求めたものが図1のグラフとなります。人口1万人あたりの訪問頻度と旅行費用の関係は、旅行費用が少ない地域で頻度が高く、旅行費用の多くなる地域では頻度が少なくなる関係として、回帰式が推定できました。

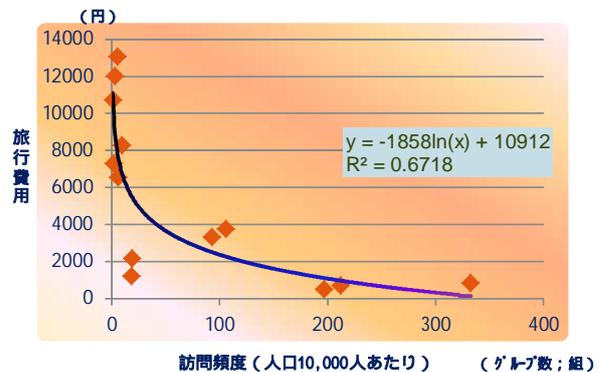


図1 碓高原牧場に対する来場者の旅行費用と訪問頻度に関する需要曲線

この需要関数から、評価の数値としてレクリエーション便益額を推計すると、碓高原牧場では牧場本来の機能に加え、保健休養機能という別の価値を年間1,600万円から3,800万円の範囲で、来場者に享受してもらっていると推定できました。

今後も魅力のある施設としてその価値をさらに高めたいと考えています。

## 試験研究情報

### 希酸加水分解フスマでカンピロバクター食中毒のリスクを低減

「フスマ」は繊維質、ビタミン、ミネラルを多く含んでおり牛や豚の飼料によく利用されていますが、鶏では消化吸収される糖質が53%と低いため、養鶏飼料の配合割合は数%に留まっています。フスマの繊維質に含まれる多糖はプレバイオティック\*素材として利用できる可能性があるものの、フスマをそのまま給与しても鶏や豚は繊維質を分解することができません。

そこで、当センターでは家畜がフスマ中の多糖を利用できるよう希酸で抽出した「加工フスマ」を実験的に作り（下図）、鶏に給与したところ、鶏の盲腸で有用な細菌（乳酸菌）が増えることがわかりました。

フスマ添加量が10%以内であればブロイラーの発育にも影響を及ぼさないことがわかっていますので、2週齢のブロイラーに加工フスマを10%配合した飼料を4週齢まで給与した後、食中毒細菌の一つであるカンピロ

バクターを経口接種したところ、加工フスマ給与区ではカンピロバクターの感染が抑制されました（表1）。

加工フスマは、飼料原料とプレバイオティック機能を兼ね備えた機能性飼料ですが、現時点では、加工フスマは市販されていませんので、製品化に向けて製造メーカーを探しています。

表1 *C. jejuni*接種3日後の陽性率

	陽性率 (%)
加工フスマ区	33.3 <sup>a</sup> (2/6) *
対照区	100 <sup>b</sup> (6/6)

\*: (陽性検体/全検体)

異符号間に5%水準で有意差あり

\*プレバイオティックとは、大腸（鶏では盲腸）に住んでいる有益な細菌（乳酸菌・ビフィズス菌）の栄養源となり、整腸作用、病気の予防・改善効果を持つ物質。

#### 加工フスマの製造方法

フスマ1に対して1%ギ酸溶液3の重量比で混合



120℃、30分加熱処理（水分77.6%）  
アラビノース多糖とデンプンが希酸熱水により抽出される



原料フスマと共に乾燥  
抽出したアラビノース多糖とデンプンがフスマ表面に膠着する



粉碎し、飼料配合原料として使用



## ハーブを利用したワクモの防除

ワクモは鶏に寄生して吸血するダニの一種です。鶏舎内でワクモが増加すると鶏の貧血や産卵率の低下など生産性に影響を与えることから養鶏場では大きな問題となっています。薬剤散布による防除が一般的ですが、鶏の飼養中に使える薬剤が少なく、また耐性ができるため薬剤が効かないワクモが出てくるなど、防除が年々難しくなっています。このため、ワクモ数を減らし、鶏への被害を低減することを目的に、ハーブ(オレガノ、タイム)を利用し鶏飼養中でもワクモ防除が可能な手法を検討しました。

オレガノオイル液とタイムオイル液を実験室内で直接ワクモに触れさせたと

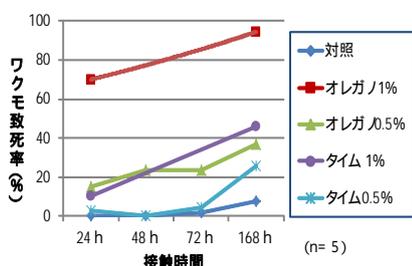


図1 ハーブオイルの致死効果

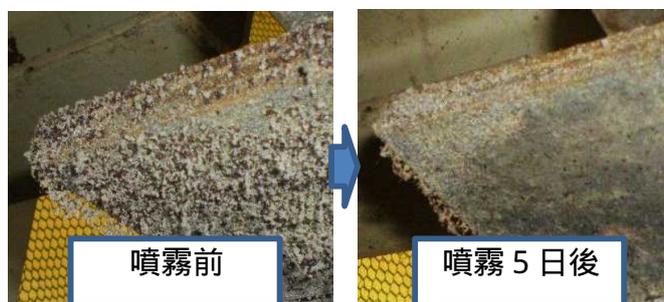


図2 オレガノオイル希釈液をワクモ集塊へ噴霧

ころ、1%のオレガノオイル液ではワクモが1週間後に約90%死亡しました(図1)。

また、鶏舎でオレガノオイル希釈液をワクモの集まっているところに噴霧すると、噴霧した場所に1週間程度ワクモは集まらず、忌避効果が認められました(図2)。噴霧前と噴霧後にトラップ(わな)を置きワクモを捕獲したところ、噴霧した場所のワクモ数は、噴霧前の半数に減少しました(図3)。

しかし、オレガノオイルは揮発するため持続的な効果はなく、またワクモの卵には効かないため繰り返し噴霧する必要があります。オレガノオイルは、大規模養鶏場では噴霧労力やコストがかかりますが、小規模農家には適用できる資材と考えられます。現在、大型養鶏場でも利用可能なトラップによるワクモの捕獲防除法を検討しています。

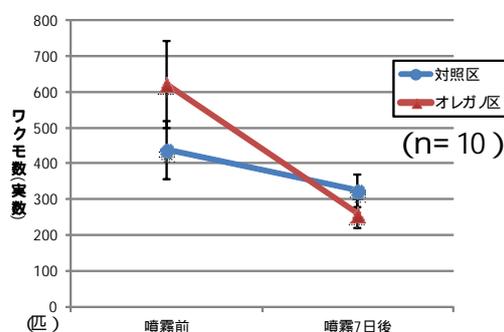


図3 オレガノオイル希釈液噴霧前後のトラップ内のワクモ数

## 密閉縦型堆肥化装置(縦型コンボ)のアンモニア発生要因と発生抑制

当センターでは、鶏ふんを堆肥化する縦型コンボを小さく再現した実験装置(写真1)をつくり、においのもとになる『アンモニアガス』がどのように発生するか、どうしたら減らせるかを調べています。

まず、縦型コンボでは高い温度でアンモニアガスが蒸発して発生するのか、微生物が働く堆肥化で発生するのかを調べようと考えま



写真1 実験装置

した。そこで、人工的に鶏ふんの中の微生物の働きを止めて実験装置を運転したところ、アンモニアの発生は 94% 減りました。このことから、アンモニアの 94 % は堆肥化で発生すると考えられました (図 1)。

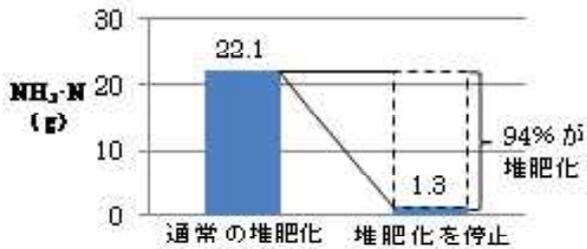


図 1 微生物阻害試験での NH<sub>3</sub>-N 放出量

次に、堆肥化で働く微生物は『炭素』が多い条件では鶏ふんの中の『窒素』をえさにすることに注目し、人工的に炭素を多く含む植物油を加えて実験装置を運転すると、窒素を含むアンモニアを微生物が取り込むのではないかと考えました。そこで、生産した堆肥に植物油 3 % を加えて副資材として繰り返し利用して実験装置を運転すると、3 回目にはアンモニアガスの発生が 40 % 以上減り、作物の養分となる堆肥中の窒素が蓄積しました (図 2, 3)。このことから、鶏ふんを堆肥化する際には炭素を多く含む植物油などを加えることで、においのもとになるアンモニアの発生を減らし、窒素成分の多い堆肥を作ることができると考えられました。

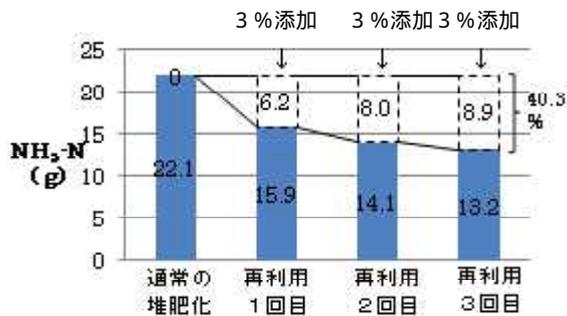


図 2 植物油 3 % 添加での NH<sub>3</sub>-N 放出量

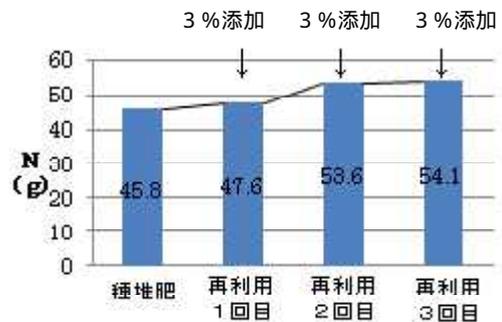


図 3 植物油 3 % 添加で生産した堆肥中窒素

## トピックス

### 飼料作物の品種選定はほ場条件や利用方法をよく考えて

飼料作物の作付面積は、全国的に減少傾向が続いていましたが、米政策の転換を機に「飼料イネ」やトウモロコシと同等の栄養価を持つ「飼料用米」の取組み等により、増加傾向に転じ、京都府内でも同様の傾向が見られます。

飼料作物の栽培はコストの低減や省力化を図ることを目的に、耕種農家と畜産農家との連携、コントラクターなどの取組みがなされる一方、作りやすく収量が多く、耐病性、多収性、耐倒伏性、早晩性、耐湿性、嗜好性、低硝酸性など様々な観点から改良が進められ

います。近年では温暖化に対応する品種の研究も行われています。

品種の選定に当たっては、ほ場の条件や利用方法に応じて、永年性牧草(オーチャードグラスやクローバー等)や単年性の作付け体系(トウモロコシとイタリアンライグラス、ソルガム類やエン麦等との組合せ)を十分に勘案しましょう。

畜産センター(綾部)では秋冬作にイタリアンライグラス(早生~晩生)、夏作にトウモロコシ(早生~中生)・スーダングラス(晩生)・栽培ヒエ(早生)を、淀高原牧場ではオーチャ

ードグラス主体の永年性牧草に加え、秋冬作のイタリアンライグラス(晩生)と夏作の栽培ヒエ(中生)の作付け体系で栽培しています。皆さんが栽培された飼料作物の一般成分や

硝酸態窒素などの分析も行っていますので、飼料作物のことでお困りのことがありましたら気軽にご相談ください。(相談窓口：畜産センター研究・支援部)

## 大切な家畜を病気から守るために ~牛舎の野鳥対策~

すみきった青空のもと、牛はゆったりと草を食べ、その側では小鳥がさえずっている。そんな牧歌的な風景を見るのはとても気持ちのいいものです。

でも、鳥は牛にとって怖い病気の運び屋にもなることをご存じですか？

例えば牛ポツリヌス症。ポツリヌス菌を原因とし、起立不能や舌・耳の下垂などの神経症状を主徴とする病気で、死に至ることも少なくありません。治療法はなく、近年発生が増えており、100頭以上が発症した例も報告されています。

この病気の特徴は、サイレージなどの飼料中で増殖した菌を牛が食べて発症する「食中毒型」と、何らかの原因により菌が付着した飼料を牛が食べて、牛の消化管内で菌が増殖し発症する「感染型」の二つがあることです。「食中毒型」はサイレージを使っていなければあまり心配はありませんが、「感染型」は野生鳥獣、特にカラスが自由に出入りできるような牛舎ではいつでも発生する可能性があります。

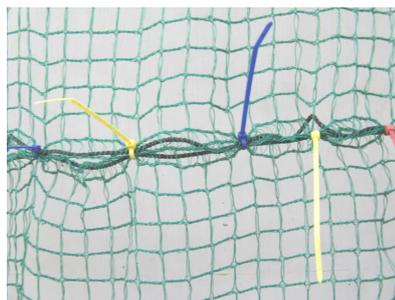
ます。ポツリヌス菌を保菌するカラスの糞便が飼料に混ざり、この汚染された飼料を牛が食べることによって感染するのです。

牛ポツリヌス症はほんの一例で、他にもサルモネラやポックスウイルスなど、野鳥は病気の原因となる様々な菌を運んでくるだけではなく、餌の盗食や弱った牛へのつつき等、数え上げればきりが無いほど家畜に害を及ぼします。

野鳥対策として、鳥の模型を牛舎に吊したり、爆竹を鳴らしたりするのをよく見かけますが、恒久的な効果は期待できません。そこでお勧めしたいのが防鳥ネットです。当センターでも設置しています。出入口は管理作業に支障の無いように番線、カーテンリングを用いて開閉を自由にし、寸法の調整は結束バンドを用いて安価に仕上げられています。牛にとって百害あって一利無しの野鳥の牛舎への侵入を防いで、大切な家畜を病気から守るために防鳥ネットを付けてみてはいかがでしょうか。



出入口の防鳥ネット（畜産センター）



結束バンドで網をつなぐ



カーテンリング

## 畜産農家を訪ねて

### ～酪農家を訪ねて 南丹市 京都府立農芸高等学校～

今回は、南丹市園部町にある府立農芸高等学校畜産部を訪問しました。

農芸高校は昭和 58 年に創立された京都府唯一の農業専門高校です。畜産部は平成 16 年度に創部され、現在 16 人の生徒が搾乳牛 16 頭を中心に家畜管理をしています。乳用牛の飼養管理技術は高く、今年 4 月に開催された関東から中国地方の 17 都府県が参加する中部日本 B&W ショウにおいて、当校生産牛がリザーブジュニアチャンピオンに輝くなど全国トップレベルにあるとともに「京のこだわり畜産物生産農場」の登録を受けています。

日々の畜産部の活動は、放課後の搾乳と飼養管理です。特徴的なこととして、毎日牛を洗ってきれいにするという習慣があります。「乳房炎の予防と牛に毎日触れる機会を与えることで生徒は観察力を学び、そして家畜の世話を 3 年間続けられたことが生徒の自信になる」と顧問の村西教諭はおっしゃいます。

今、生徒たちは、平成 27 年 10 月に北海道で開催される全日本ホルスタイン共進会での上位入賞を目指して乳牛の管理に取り組んでいます。その姿に村西教諭は、「共進会に参

加することで生徒たちが多くの人と出会い、それを通じてコミュニケーション能力を高め、社会人として大きく成長してもらいたい」と願っておられます。

共進会で知名度が上がることで、畜産部への入部を希望し農芸高校進学を決めた生徒も増えているとのことで、酪農の発展に貢献されている畜産部の活動、未来の酪農を担っていく若い人材に期待が高まります。

(岩崎 記)



### ～和牛繁殖農家を訪ねて

今回は、綾部市にある本田文夫さんの牧場を訪問しました。本田さんは 3 年前までは消



### 綾部市 本田文夫さん～

防署に勤務しながら、兼業農家として牛を飼っていましたが、退職を機に農業に専念され、現在、母牛 13 頭規模の地域の中核的な和牛繁殖農家として頑張っておられます。

本田さんは、専業農家になったことをきっかけに自給飼料の栽培を本格的に始め、現在では飼料イネ 2.5ha をはじめ、イタリアンライグラスやソルガムを約 1ha 栽培されています。また、エコファーマー認定農家でもあり、牛ふんはすべて自家用堆肥として利用するなど資源循環型農業の手本となる経営をされています。

自給飼料栽培のほか、春から秋には田んぼ

や畑のあぜ草を昼間のうちに刈り取り、牛の餌として利用しています。その理由を伺うと、「牛の餌代の節約のためだけではなく、牛舎周辺の景観の保全のためにも暑い中頑張っている。」とのことでした。

「今はひと月に1頭が分娩するペースなので、まずは牛の頭数を24頭まで増やしたい。そして放牧を行い休耕田の活用をしていきたい。」との熱い言葉に意を強くしました。

(鳥谷 記)

### ～養鶏農家を訪ねて 綾部市 峰地幹介さん～

綾部市上林の静かな山あいでも国産鶏「もみじ」を平飼いで約400羽飼育する蓮ヶ峰農場、二代目農場主峰地幹介さんを訪ねました。先代の鶏や飼料、飼育環境に対するこだわりを受け継ぎ、今年1月に養鶏業をスタートしたばかりのピカピカの1年生です。



これまでに果樹、野菜、養豚に携わってききましたが本格的な養鶏は未経験でした。後を継ぐ決心をしたものの戸惑うこともあるとのことですが、これまで身に付けた経験や知識を生かし

ながら試行錯誤を重ね、日々奮闘されています。

蓮ヶ峰農場で作られる卵の特徴は、一貫したえさに対するこだわりと鶏の立場になって考え動物福祉に配慮した飼育環境にあります。飼料は地元産の小麦、玄米、ぬか、輸入に頼らざるを得ないトウモロコシや大豆粕は非遺伝子組み換えのものを使用しています。また、飼える羽数は少なくなりますが、飼育密度は1坪7羽程度のゆったりとした飼育環境を心がけておられます。

このような峰地さんの考えは、消費者の根強い支持を得ており、鶏卵の主な販売先は京都市内ですが、地産地消にこだわる地元飲食店や大阪、遠くは福島へと広範に及びます。

現在の羽数では顧客の要望全てに応えることができないため、近い将来、もう少しだけ鶏を増やしたいと思っておられます。そのため、鶏舎を1棟増築する予定で、当所が提案した鶏舎設計図をもとに地元の大工さんと目下思案中とのことであり、蓮ヶ峰農場の将来が楽しみです。

(西井 記)

### 畜産センターのホームページもご覧ください

試験研究の成果やトピックス、月々の活動報告や既刊の畜産センターだよりなどをご覧ください。また、「京都府土づくりネットワーク」で、京都府内で生産されている家畜堆肥の成分や製造方法などを知ることができます。

<http://www.pref.kyoto.jp/chikken/>

### 編集後記

本年度、畜産センターに3名の新規採用職員が配属になりました。一日でも早く皆様のお役に立つ職員となれるようがんばっておりますので、よろしくをお願いします。



岩田技師(礎牧場)



岩崎技師



辻技師

